



虎毛山塊・神室連邦

ラッセル・ラッセル

## 荒雄岳

栗原

予定していたメンバーがキャンセルとなり、単独となってしまったこの3連休。うーむ、やはり東北が気になる。連日雪の便りの届く中、日本海側は厳しいし、樹林限界を超えるのも厳しいなあ…で、見つけたのが荒雄岳。秋田・山形・宮城の県境のギリギリ宮城側にある。そして標高も984m。そんなコンパクトな山でありながら、鬼首カルデラの中央に位置し、なんだか存在感を醸し出している。よし、ここに決めた！当初縦走を予定していたが、流石にこの雪、あっさりと八ツ森コースの往復に変更。久々の単独ラッセル、さてどうなるか…？

### 1月8日 曇り午後遅く晴れ

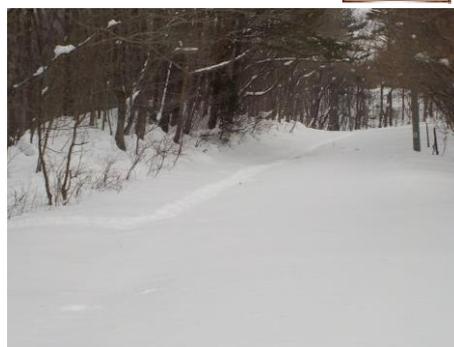
朝、鳴子温泉のバス停でバスを待つも、待てど暮らせど来ない。連絡先に電話を入れると、なんと土曜日は平日ダイヤとのこと。休日ダイヤかと勘違いしていた…。仕方がないので、タクシーの人となる。運転手さんに「今年の雪は、平年並みでしょうかねえ？」と話しかけると、「去年と特に一昨年は雪が少なかったけど、今年は多いですよ。」とのこと。タクシーで降ろされた場所が今ひとつわ

からず、GPSの世話になる。ちょっと行き過ぎてたので戻って林道入口に行くと、当然のごとく除雪はされておらず、早速スノーシューの出番だ。食事など最大限軽量化をしてきたが、それでも久々に担ぐテント泊の荷物は重い。気温が高く穏やかなのは嬉しいが、すぐに汗が吹き出てくる。

すると、突如として左手の斜面からワカン跡が現れた！これは先行者がいるのか？！と期待半分落胆半分だったが、どうやら間欠泉に向かうトレースらしく、すぐに林道を右の斜面にそれていった。再び静かな一人ラッセルとなる。2時間で八ツ森コース入口に到着した。コースタイムの2倍は予想通りだ。八ツ森コースに入ってからもしばらく林道が続く。体力の消耗も予想通りだが、予想よりヘタレだったのは、体力ではなく精神力だ。20歩ごとに立ち止まるようになってきた。天気予報では、明日の午前中は雪か雨、できれば今日中に山頂を踏みたいが、このペースでは厳しそう。で、急遽予定を変更して、ベースを下に構え、日帰り装備で山頂アタックすることにした。林

道終点に荷物をデポし、身軽になってスピードを上げる。

登り始めは結構急で、山スキーのようにジグザグに登る。夏道もついているはずだが、判然とせず、すぐに外してしまった。一人黙々と斜面を登る。尾根に着くと、傾斜は緩むものの、やはりラッセルだ。しかし日帰り装備が功を奏してなんとか順調に進んだ。やがてツクシ森からの分岐を合わせて暫く行くと、山頂に到着した。天気はまずまず、誰もいない山頂でとりあえず、証拠写真をパチリ。感慨に浸ることもなく、山頂を後にして、あとはひたすら下るのみ。さくっとデポ地まで戻って、さあどうしようかと一思案。が、今から荷物をまとめて林道に戻る気力もなく、おとなしくその場でテントを張って一晩泊まることとした。予報通り夜には雪が降ってきたが、後は林道に戻るだけ。不安もなく眠りについた。



突如現れたワカン跡はすぐに消える



ラッセル・ラッセル



諦めてデポ



ここから出発…地獄への入り口？



尾根を一人ラッセル



山頂に到着！！

## DATA

山行日 2022年1月8日～9日

行程 1/8 間欠泉前(9:10)～ハツ森コース入口(11:25)～林道終点デポ地(12:10)～荒雄岳(14:30)～C1(15:40)

1/9 C1(8:20)～ハツ森コース入口(8:50)～片山地獄入り口(10:20)

地形図 軍沢、鬼首

メンバー 栗原

## 1月9日 朝雪昼前から晴れ

明け方まで雪が降っていたが、薄っすらとトレースは残っていた。のんびりテントを撤収してゆるゆる歩き出す。歩き始めは少し雪が降っていたが、歩いているうちに薄っすらと陽が差してきた。ここは宮城、(分水嶺より)太平洋側だ！除雪された車道まで戻ったら、あとは温泉に一直線！のはずが、近くの宮沢温泉はどこもやっていない。さまよった挙げ句、轟温泉まで歩いてようやく温泉にありつけたのだった。



待望の温泉！！